



Title	主語人称代名詞の使用と省略について : 動詞語尾との関連を中心とする頻度調査
Author(s)	出口, 厚実
Citation	Estudios Hispánicos. 1968, 1, p. 104-118
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/93562">https://hdl.handle.net/11094/93562</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 主語人称代名詞の使用と省略について

—動詞語尾との関連を中心とする頻度調査—

出 口 厚 実

イスパニア語の主語人称代名詞は文中で省略されるのが普通で、その使用は主語を特に強意的に表わすといわれる。代名詞の動詞に対するこの独立性は、同じロマンス語にあって主格人称代名詞が高度の *gramaticalización* に達しているフランス語の場合と対照的であるが、これはイスパニア語の *desinencia verbal* が主語の人称を、ある程度まで区別し明らかにするという事実により一般に説明されている。従来、代名詞的主語の省略として比較的簡単に扱われているこの問題を、特に計数的に調査可能な部分を中心に少し詳しく調べてみたいと思う。すなわち、人称代名詞一定動詞の結合の任意性は各代名詞と *desinencia verbal* との組合せによって変化するものかどうか、また変化があるとすればどの程度なのか、その他の条件により制限されているかを、現代イスパニア語について検討してみたい。

## I. 動詞活用中の人称語尾

人称語尾は *desinencia* の中で時制接尾 (*vocal temática* を含めて) と、時には *radical* とさえ融合しているために、それだけを分離することは非常に困難である。<sup>①</sup> 実際に意味上も独立して一要素としてはほとんど意識されていないだろう。そこで、*desinencia* の最も末尾の部分 (*terminación*) を動詞定形のすべての法・時制にわたり調べることによって、*terminación* の形態が自立的に各人称を区別するのに十分であるかどうかを見てみると第1表のようになる。表中で○を付けた個所に *terminación* が存在する。

他と共有しない唯一の *terminación* で特徴づけられるのは一人称複数 (-os) のみであり、他の人称はいずれも2種類以上の変化語尾末尾を持っているが、三人称複数が一人称複数について明確な *terminación* を示して

第 1 表

語末音		人 称			單 数			複 数		
		1	2	3	1	2	3			
母 音	a	○		○						
	á			○						
	e	○	○	○						
	é	○		○						
	í	○	○							
	o	○		○						
	ó			○						
y	○		○							
子 音	s {	as		○						
		ás		○						
		es		○						
		és		○	○					
		is					○			
		ís					○			
	os						○			
	n		○		○					
	d					○				
	l		○							
z		○								

注1. 不規則変化動詞の語尾を含んでいる。

2. **acento ortográfico** の有無にかかわらず, **acento prosódico** が落ちる母音は, **á, é, í, ó** に分類した。

いる。すなわち-nが特色で, 若干の不規則動詞の二人称単数(命令法)とこれを共有するだけである。二人称複数も命令法で-dをとる他は-is, -ísで終り, かなり明確である。結局, 残る単数人称, 特に一人称および三人称が多様な **terminación** をとると同時に, 互いに共通のものを持っている。前者の-a, -e, -é, -í, -o, -y の6種に対し, 後者は-a, -á, -e, -é, -o, -ó, -és, -y の8種をとり, これらのうち5種 -a, -e, -é, -o, -yを共有している。独自なのは一人称単数の-i, 三人称単数の-ó, -á, -és(serの直説法現在)のみであるから, これらの人称を表わす **terminaciones verbales** は互いに独立して識別されにくいはずである。全体的には, 各人称の複数形が単

数形よりも判別されやすい独自の特徴的な語尾をとっていることがわかる。

## II. 動詞定形の種類

一つの規則動詞が仮に現存するすべての法・時制・人称を区別するものとすれば、110種の変化語形が必要である。<sup>②</sup> しかし実際の動詞定形の種類は、-ar, -ir 規則動詞が96種、-er 規則動詞では97種になる。不規則動詞の *ir, ver, ser, haber, poner, tener* など *pretérito fuerte* と不規則な命令法単数形をもつものは98種の異なる変化形を有し、*andar, estar, dar* 等、多くの不規則動詞は97種である。したがって少なくとも24の共通形が見出されるはずである。その中には同一形が異なる時制または法にまたがって存在することもある。例えば、*tomamos, vivimos* のように直説法現在と不定過去の一人称複数が同じである場合や、*toma, come* のごとき直説法現在三人称単数と命令法単数の一致がそれに当るが、前者の混同は代名詞の使用によっても避けられないゆえ、人称代名詞と *desinencia* との関連をみるうえでは問題外となる。また後者の形態的一致も、通常、主語を伴わない命令法という特殊な形式を考慮に入れて別に扱う必要があると思われる。この二つのケースを除けば、共通形による人称の両義性はすべて、同一法・時制内での一人称・三人称単数形の一致に起因している。第2表に示されるように動詞 *paradigma* 中に、混同されうる共通形 (*formas equívocas*) は合計12種×2、24形発見され、全体(命令法を除く)108の22%強に相当する。さらに三人称単・複数形は意味上の二人称である代名詞 *usted, ustedes* とも結合するので、三人称複数を共通形として計算すれば、その合計は48に達する。

第 2 表

法 \ 時制	現在		過去		過去完了		未来		可能未来	
	現在	完了	(不完了)	(不定)	(大過去)	(直前)	未来	完了	可能	未来
直説法			○		○				○	○
接続法	○	○	RA形 ○	SE形 ○	RA形 ○	SE形 ○	○	○		

### Ⅲ. 代名詞の使用と省略

以上のように、イスパニア語の動詞 **desinencia** における人称語尾のシステムは不完全であり、明確に人称を示す一人称複数と非常に混同されやすい形態を多くもつ一・三人称単数を両極端に、**desinencia** の人称表現力は各人称によってかなりの差が見られる。

したがって、代名詞の使用・省略を **estilística** の問題としてだけでなく、動詞の **morfología** と関連づけて捉えることは十分根拠があると考えられる。<sup>③</sup> もっとも、状況や **contexto** から明白であるために、たとえ語尾が不明確であっても代名詞の必要が感じられない場合も起るだろう。逆に **desinencia** が明瞭に人称を表わしているのに代名詞が使用されている時、それが動詞行為の主体を強調するために用いられたとは断定できない。**forma equívoca** が代名詞を伴う場合、曖昧さの解決として使用されたのか、行為者の強意として用いられたのかを見きわめることは容易ではない。

そこで、主語人称代名詞は実際にどの位用いられ、あるいは省略されているのか、おのおの代名詞と **desinencia** との関連に注意しながら次のような方法で調査を試みた。

#### 〔1〕対象

今回はイスパニア本国の現代語に限定して調べようと思ったので、今世紀のイスパニア語散文を対象にした。19世紀末に発表された作品をいくつか含めたが、その作者のほとんどが **generación del 98** に属し、前世紀末から今世紀前半にかけて活躍した人々であるから、現代イスパニア語と見なして差し支えないと考える。調査量としては、およそ 10,000 の定動詞を目標にしたが、各抽出単位はなるべく小さくし作品・作家の種類を多くすることにより、単位間の偏差が資料全体として小さくなるようにした。作者あるいは作品の文体的比較を目的とするのではないので、また作業上の煩雑を避けるため、一単位の大きさを設定しなかった。結果的には1単位中に、200～400定動詞が含まれているものが多い。ただし調査対象全体で叙述部分が支配的なテキストと対話部分の方が多いテキストとの数が概ね等しくなるように留意した。各単位は、対象となった作品の任意の二・三個所、すなわち前半・後半または前部・中間・後部の各一個所に連続して現われる定動詞の総和である。調査対象の決定にあたっては、テーマ、年代、地域差が一つの方向に偏らないように注意して、以下の作者28人、作

品33編を選んだ。右欄に単位中の定動詞を記した。

Arce, Manuel (1926— )	
“Testamento en la montaña”	313
Azorín (1874—1967)	
“Madrid”	212
Baroja, Pío (1872—1956)	
“Paradox, Rey”	544
“Fantasías vascas”	308
Blasco Ibáñez, Vicente (1867—1928)	
“Puesta de sol”	173
“Cuentos valencianos”	240
Casona, Alejandro (1903—1965)	
“La barca sin pescador”	257
Calvo Sotelo, Joaquín (1905— )	
“La visita que no tocó el timbre”	503
Cela, Camilo José (1916— )	
“El gallego y su cuadrilla”	212
“Viaje a la Alcarria”	159
Delibes, Miguel (1920— )	
“Las Ratas”	312
Fernández Santos, Jesús (1926— )	
“Los bravos”	370
Gironella, José María (1917— )	
“Los cipreses creen en Dios”	383
Gómez de la Serna, Ramón (1888—1963)	
“El caballero de Olmedo”	106
“El circo”	165
Goytisolo, Juan (1931— )	
“La Chanca”	344
Jiménez, Juan Ramón (1881—1958)	
“Platero y yo”	177
Laforet, Carmen (1921— )	

“Nada”	754
López Salinas, Armando (1925— )	
“La mina”	382
Martín Gaité, Carmen (1925— )	
“Entre visillos”	342
Matute, Ana María (1926— )	
“Los Abel”	386
Pérez de Ayala, Ramón (1881—1962)	
“Troteras y danzaderas”	321
Pérez Galdós, Benito (1843—1920)	
“Doña Perfecta”	473
Pla, José (1897— )	
“La Calle Estrecha”	200
Quiroga, Elena (1919— )	
“La sangre”	316
Romero, Luis (1916— )	
“La noria”	439
Salvador, Tomás (1921— )	
“El atentado”	391
Sánchez Ferlosio, Rafael (1927— )	
“El Jarama”	441
Tapia, José-Félix (1910— )	
“La luna ha entrado en casa”	373
Unamuno, Miguel de (1864—1936)	
“La tía Tula”	146
“El espejo de la muerte”	421
Valle Inclán, Ramón María del (1869—1936)	
“Jardín umbrío”	207
Zunzunegui, Juan Antonio (1901— )	
“El hijo hecho a contrata”	282

〔2〕 方法

調査テキスト中のすべての定動詞に注目し、まず主語が現われているか

否かを調べ、主語がある場合それが人称代名詞であるか、他のものであるかに大別し、前者の場合は、それぞれの代名詞別に数えたが、特に三人称の人称代名詞では活動体・不活動体のいずれを表わすかによる下位分類を加えた。人称代名詞以外の主語については、これと近い関係にある指示代名詞を別に数え上げた。

次に主語が現われていない時は、それが **contexto** から推定して補いうる場合、そこに省略されたと考えられる代名詞別に統計をとった。ただし、2個以上の定動詞が隣接して位置し、予想される主語が同一である時、最初の動詞のみを計算に入れて、位置により明白なため主語が当然表現されない2番目以後の定動詞は従属的省略とみなし別途に数えた。しかし並列的接続詞 **y, ni, o** の前で **coma** によって分断された複文においては2つ以上の定動詞が近接していても独立のものとして計算した。

主語が人称代名詞以外の時を除き、上述のどの場合でも定動詞が **forma equívoca** であるか **inequívoca** であるかを常に区別して数え、**equívoca** の場合、時制別分布をも調べた。主語を持たない定動詞で、その意味から主語を補うことのできないもの、すなわち本来、主語を必要としない動詞、例えば《**Llueve. Empezó a llover.**》等における単人称動詞または、それと共に用いられた **perífrasis verbal** の定形は無人称として数え、単数と複数に分けた。《**Son las diez. Van a dar las once.**》の定動詞 **son, van** や一般に無人称的に用いられる三人称複数も同様に扱った。いわゆる“無人称主語の **se**”も別に数え出した。

### 〔3〕結果と分析

第3表は調査テキストに現われた定動詞の総語数10,652の、主語の有無と、使用された、あるいは省略された主語の種類別の内分けを示す。

主語を持つ定動詞と持たないそれとは、合計で大体半々であるという結果が出ているが、特に人称代名詞の使用・省略の比としては、817:4,174を見ることができる。省略が使用の約5倍であって、人称代名詞の使用・省略が問題になる場合での、使用される割合《使用率》は16.4%になる（命令形を除く）。従属的省略は規則的に起る **omisión sintáctica** であり、代名詞主語を表わすか否かの選択が生ずる範囲外にあるから、上記比率の計算に際して除外した。何らかの主語を伴う定動詞中、人称代名詞を主語とするものの比率は、偶然にも使用率と同じ、16.4%である。また独立的省

第 3 表

有 主 語		無 主 語		
人 称 代 名 詞	817	省 略	独 立 的	4,174
そ	指示代名詞 143		従 属 的	320
の 他	指示代名詞 以 外 4,036	無 人 称	単 数	411
			複 数	197
			se	209
計	4,996	計	5,311	
命 令 形 *	33	命 令 形 *	312	
合 計	5,029	合 計	5,623	

\* 命令法および命令形として用いられた接続法現在を含む。

略は無主語定動詞全体の78.6%に達する。人称代名詞主語を持つ定動詞の、命令形を含めた定動詞全体に占める割合は、7.7%を示している。

さらに、人称代名詞の使用、省略比817 : 4,174を各代名詞別に分類したのが次の第4表である。<sup>④</sup> 調査テキスト中に発見された人称代名詞は *yo, tú, él, ella, ello ; nosotros, nosotras, vosotros, vosotras, ellos, ellas ; usted, ustedes, usté* の14種であったが、最後の *usté* は *usted* の俗語あるいは方言形であり、出現頻度も非常に小さいため *usted* の中に含めて計算することにした。またこれらを、定動詞の *forma equívoca* と結合することのある代名詞（第Iグループ代名詞）と *forma inequívoca* のみをとるもの（第IIグループ代名詞）と二分して比較することができる。

*usted, ustedes* は本来それぞれ第I, 第IIグループに属する代名詞であるが、特に文法上の名詞的性質と *tratamientos* としての機能から、動詞定形との結合度が著しく高い特殊性を考え、第4表のごとく、別に分類してみた。人称代名詞の出現度数の絶対数は *yo, usted, él, tú, ella, ustedes, nosotros, ellos, vosotros, ello* と *ellas, nosotras* と *vosotras* の順位で、一人称単数の *yo* が圧倒的に多く、*nosotras, vosotras* は約1万余の定動詞のうちに、それぞれ1例ずつ発見されただけである。

第 4 表

代名詞		使 用	省 略	計	使用率%
第 I グループ	yo	304	1,127	1,431	21.2
	él	86	1,178	1,264	6.9
	ella	68	521	589	11.5
	ello	4	247	251	1.6
	小 計	462	3,073	3,535	13.1
第 II グループ	tú	73	387	460	15.9
	nosotros	17	257	274	6.5
	nosotras	1	12	13	6.5
	vosotros	6	37	43	16.2
	vosotras	1	4	5	20.0
	ellos	14	225	239	5.9
	ellas	4	52	56	7.1
小 計	116	974	1,090	10.6	
	usted	202	92	294	68.7
	ustedes	37	35	72	51.4
	小 計	239	127	366	65.3
総 計		817	4,174	4,991	16.4

次に人称代名詞が使用されるか、省略されるかを中心に検討すれば、第 I グループの内では代名詞によりかなりの差が見られる。yo の使用率が 21.2% であるのに対し ello は僅か 1.6% に過ぎない。第 II グループでは tú, vosotros, vosotras が高い比率を示しているが、他の 4 代名詞の割合は大體近い値を出している。usted と ustedes はそれぞれ 68.7%, 51.4% と使用が省略を上回っていることを意味し、両者の平均 65.3% は第 I・II グループのどの代名詞よりも高い。

ところで第 I グループの平均使用率 13.1% と第 II グループの平均 10.6% の差がさほど大きくない点は注目すべきである。usted, ustedes をそれぞれ第 I, 第 II に算入した場合でもその比率は 17.3% : 13.2% となり、開きはあまり大きくない。このことは定動詞自身による人称示差性の曖昧さが代名詞の使用とそれほど密接に関連していないのではないかと思わせる。

しかし第 I グループと関係する定動詞の形態は常に *equivoca* であるとは限らないから、*forma equivoca* と *forma inequivoca* とに分けて検討する必要がある。⑤ 第 5 表は、代名詞の有無別の *equivocas* と *inequivocas* の頻度を示し、第 6 表には定動詞語尾の形態別の各代名詞の使用率を、第 7 表には *forma inequivoca* が *equivoca* の何倍に当るかを、それぞれ示した。

(EQU=*equivoca*, INE=*inequivoca*)

第 5 表

pron. \ forma	使 用		省 略		計	
	EQU	INE	EQU	INE	EQU	INE
yo	112	192	210	917	322	1,109
él	37	49	498	680	535	729
ella	28	40	208	313	236	353
ello	2	2	58	189	60	191
計	179	283	974	2,099	1,153	2,382
usted	21	181	16	76	37	257

第 6 表

	EQU	INE
yo	34.7%	17.3%
él	6.9	6.7
ella	11.9	11.3
ello	3.3	1.1
平均	15.5	11.9
usted	56.7	70.4

第 7 表

	使 用	省 略	平 均
yo	1.7	4.4	3.4
él	1.3	1.4	1.4
ella	1.4	1.5	1.5
ello	1.0	3.3	3.2
平均	1.6	2.2	2.1
usted	8.6	4.8	6.9

各代名詞の使用率を見ると、yo では *equivoca* の場合の使用率が *inequivoca* の約 2 倍であるのに対し、él, ella, ello は *equivoca* と *inequivoca* との差は非常に小さい。*formas inequivocas* の平均使用率 11.9% は第 4 表の第 II グループ代名詞平均率 10.6% に近い。*forma inequivoca* の equi-

voca に対する比率では、省略された yo と ello に相当する定動詞に対する数値が大きいのが目立つぐらいで他はほとんど1～2倍の間に位置している。全体では forma inequívoca が equívoca の約2倍見い出される。usted だけは equívoca, inequívoca にかかわらず使用率が50%を越え、他の代名詞とは逆に forma inequívoca の時の方が使用率がかなり上回っている。equívoca, inequívoca の比率についても他の第Iグループ代名詞とは大差が見られるが、特に、usted が主語として用いられている定動詞の形態別では inequívoca が equívoca の8倍以上も数えられる事実は、usted の使用・省略の決定には、desinencia のもつ第一人称との両義性よりもむしろ、usted の pronombre de cortesía としての性質や、三人称代名詞との区別の必要、あるいはその他の要素が強く働いていることを示唆しているように思われる。第Iグループの formas inequívocas と第IIグループとを併せて、すべての代名詞について equívocas と inequívocas を比較してみると次表のようになる。(usted, ustedes を除く)

第 8 表

	使 用	省 略	計	使用率(%)
EQU	179	974	1,153	15.5
INE	399	3,073	3,472	11.5
計	578	4,047	4,625	12.5

このように desinencia が曖昧であるという形態的な面のみが代名詞の使用・省略を決定する条件になっているとはいいがたい。

念のために formas equívocas を時制ごとに細別してみる。第2表の共通語尾を持つ12の法・時制のうち今回の調査で現れたのは、直説法不完了過去、大過去、可能未来、可能未来完了；接続法現在、過去 RA形・SE形、現在完了、大過去 RA形・SE形の計10種であるが、接続法の RA形と SE形はまとめて一時制として統計をとった。

各代名詞によって多少の凸凹はあるが、第Iグループ全体として見れば、使用・省略の割合は各時制を通じて近似している。両者を比較した時制別の分布もかなり近い比率を呈しているのに気付く。直説法不完了過去がい

第 9 表

		不完過	大過	接現	接過	接完	接大	可未	可未完	計
使 用	yo	72	9	11	7	0	3	10	0	112
	él	32	2	0	1	0	0	2	0	37
	ella	18	1	1	4	0	1	3	0	28
	ello	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	計	124	12	12	12	0	4	15	0	179
省 略	yo	122	16	29	20	0	6	14	3	210
	él	353	39	21	48	1	7	27	2	498
	ella	145	13	11	27	0	1	11	0	208
	ello	44	1	2	4	0	2	5	0	58
計		664	69	63	99	1	16	57	5	974

ずれの場合にも、特に多く、約70%を占めており、直説法大過去、可能未来；接続法現在、過去がほぼ同一水準で続き、接続法大過去はこれらに比較してかなり少なく、可能未来完了と接続法現在完了はきわめて僅かである。以上のように *formas equívocas* の中のある時制が、特に人称代名詞の使用・省略と密接に関連しているということはないようである。ただ接続法過去において、代名詞が使用される割合が若干少ないのが目立つ程度である。

三人称代名詞, *él, ella, ellos, ellas* は、それが表わす名詞が活動体 (*animados*) であるか不活動体 (*inanimados*) であるかによって分類できる。第4表～第7表の三人称に関する部分を、この区分をとり入れ再び集計してまとめてみると第10表になる。

使用された代名詞 172 のうち不活動体は2例だけで著しく少ない。また平均使用率をみると活動体が8.5%に対し不活動体1.4%と大差があることから、不活動体を表わす主格人称代名詞はごく稀にしか用いられないといえる。

以上、代名詞の側から定動詞との関連を分析したが、最後に定動詞 *desinencia* によって区別される人称を中心にして代名詞の使用・省略を調べる。

第 10 表

			活動体	不活動体	合計
使	él	EQU	36	1	37
		INE	49	0	49
用	ella	EQU	28	0	28
		INE	40	0	40
		ellos	14	0	14
		ellas	3	1	4
		計	170	2	172
省	él	EQU	480	18	498
		INE	655	25	680
略	ella	EQU	180	28	208
		INE	285	28	313
		ellos	200	25	225
		ellas	34	18	52
		計	1,834	142	1,976
合計			2,004	144	2,148

第 11 表

			使用	省略	合計	省略/使用
非 共 通 語 尾	単	1人称	192	917	1,109	4.8
		2人称	73	387	460	5.3
		3人称	272	1,258	1,530	4.6
	複	1人称	18	269	287	14.9
		2人称	7	41	48	5.9
		3人称	55	312	367	5.7
		計	617	3,184	3,801	5.2
共通語尾			200	990	1,190	5.0
総計			817	4,174	4,991	5.1

第11表を見れば明らかなように、省略・使用の比は、一人称複数を除き、

各人称間の値が非常に近寄っている。平均5.0の共通語尾と5.2の非共通語尾との差も無視できる程度のものである。一人称複数語尾が他と比べて、代名詞を伴わない割合が3倍近く大きいことは、第1表でみたとおり、動詞活用中の一人称複数語尾の明確さが一つの要因であると考えられる。

動詞変化語尾から見れば、人称代名詞の使用率における、*forma equívoca* と *inequívoca* との差は僅少であり、明瞭で示差的な *desinencia* で示される一人称複数を例外として、*inequívoca* の各人称の使用率もたがいに近似していることがわかった。第4表～第7表で見られた代名詞の個別的差異は、したがって、*desinencia* の形態と個々の代名詞との関係以外によると考えるべきだろう。*vosotros, vosotras* は今回の調査での出現絶対数が小さいので、決定的な判断は下しにくいだが、*yo, tú* の使用率が相対的に高いのは、これが対話中での強意形として多用される傾向と関連があると思われる。また三人称は活動体と不活動体の両方を含むのに対し、一、二人称は専ら活動体であるから、第10表のように不活動体が三人称代名詞の使用を妨げ、使用率をいくらか低くしているはずである。

*yo* の使用率が *equívoca* の場合に *inequívoca* の時よりもはるかに高い(第6表)のは次のように説明される。*forma equívoca* は、主語を伴わず、仮に *contexto* がないと仮定する時、一人称・三人称のどちらを意味するかについて完全に中立ではなく、一方に傾斜しているようである。第5表を見ると、一人称：三人称は使用の場合112：67であるのに対し省略では210：764と逆転する。すなわち無主語の場合は三人称を意味することが優勢であるために、特に一人称の使用率が高くなり、逆に三人称代名詞の使用率は反比例して低くなる。しかし *equívoca* 全体では、第11表の示すごとく、共通語尾5.0は非共通語尾、一人称単数4.8、三人称単数4.6に近い値を示しているわけである。

〔注〕

- ① 不完全であるが、次の2種に大別できる(命令法を除く)。
  1. 直説法不定過去時制 ゼロ, -ste, -ó, -mos, -steis, -ron
  2. 上記時制の除く他のすべての時制-oまたはゼロ, -s, ゼロ, -mos, -is, -n
- ② 受動態は *paradigma* に含めない。また再帰動詞, 単人称動詞, 不具動詞等は考慮に入れない場合である。

③ M. Criado de Val は *Fisonomía del idioma español* で次のように述べている。(p. 133) “Los pronombres de tercera persona son más usados en español como sujetos del verbo, debido a la posible confusión entre las desinencias verbales de primera y tercera personas : yo amaba, él amaba” usted を三人称代名詞とみなすならば, 今回の調査結果は上記と一致する(第4表参照)。しかし同著書 p. 130 に usted, ustedes を二人称代名詞として扱っているのだから, pronombres de tercera persona は él, ella, ello を指していると思われる。そうすると私の調査の結果と異なっている。

④ 総語数60万語中に出現する, 主語として用いられた代名詞の頻度を調べたものが Keniston の *Spanish Syntax List* に見られる (p. 45)。

yo.....	1, 956	nosotros.....	116
tú.....	914	vosotros.....	50
él.....	534	ellos.....	78
ella.....	422	ellas.....	48
ello.....	31	usted, ustedes.....	2, 104

⑤ Salvador Fernández による, 代名詞 yo についてのみの調査がある。(Gramática española, p. 218)

テキスト	使用		省略		計	
	EQU	INE	EQU	INE	EQU	INE
A	72	18	156	383	228	401
B	49	91	45	215	(94)	(306)
A+B	(121)	(109)	(201)	(598)	(322)	(707)

テキスト A = Pérez Galdós, “Las tormentas del 48”

B = J. Benavente, “La losa de los sueños”

参考書

Eduardo Benot : *Arte de hablar*, Ediciones Anaconda, Buenos Aires, 1952

M. Criado de Val : *Fisonomía del idioma español*, Aguilar, Madrid, 1957

Real Academia Española : *Gramática de la lengua española*, Espasa-Calpe, Madrid, 1962

Salvador Fernández : *Gramática española I Los sonidos, el nombre y el pronombre*, Manual de Revista de Occidente, Madrid, 1951